

2021年5月1日

西宮YMCA保育園 5月えんだより

年 主 題 『 共に喜んで ～すべての歩みの中～ 』

年主題聖句 「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです」
＜コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章26節＞

いつの間にか、桜の木々には葉っぱが生い茂り、まさに「新緑」、いのちの輝きを感じさせる色ぶりになっています。人の世にはいろいろなことが起こっても大地はその営みを停めることなく大きな流れを感じさせる、そんな人間の小ささと自然の懐の大きさを今年の初夏に際して感じています。

子どもたちも同様に、4月の最初そこかしこで聞こえていた泣き声が5月は笑い声や先生をおともだちを呼ぶ声に変わりました。特に新入園の子どもたちにとってこれは成長というより「ここを自分の場所」と感じられるようになった安心感が変化を招いているのだと思います。でも、安心という土壌の中で、子どもは探求心や意欲、他者とかかわりなど成長の根っこを伸ばしていくものだと思いますので、いよいよ子どもの育ちが始まっていくのだと、わくわくもしています。

そうした意味では、学校に通う子どもから大人そして高齢者の方にとってはこのコロナ禍は非常に生きづらい世の中になっているともいえるでしょう。街に出向くことも他者とかかわることも、挙句には家から出ることすら不安を感じてしまう時代、人として真っ当な生き方・過ごし方が何なのかも迷わせている現状は、異常な事態であるといえるでしょう。こうした時代だからこそ、具体的な「安全」も大切ですが、感情や思いを含めた「安心」とは何かを考えること、そして未来を創っていく子どもたちが今この時の育ちが十分になされるような安心して過ごせる環境を守っていくことが私たちの重大な責務だと感じています。

変な話ですが、安心をつくっていくには単に保守的になるのではなく、自分から心持ちを変えていく必要があると思っています。受動的でなく能動的に、希望を見出し、現状を変えようと踏み出すこと、困難に立ち向かうこと、そして新たな出会いを喜ぶことが、心を満たし幸せになるための力となると、アメリカの最新の知見では語られています（「Psychological Capital」 Fred Luthan）。そうしたことへの基盤が育てられる場所としてYMCAの保育園があるように歩んでまいろうと思います。

5月の聖句 「安心して行きなさい」 ＜マルコによる福音書5章34節＞

5月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	感じる	感じる
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 園の生活に慣れ、周囲の人や物に気付く * 保育者と一緒に遊んだり、散歩に出かける * 好きな遊びを見つける 	<ul style="list-style-type: none"> * 身近なものや人に関心を持ち、かかわる * 自分のやりたい遊びをする * ものや人とかかわる中で、友だちの思いや気持ちが異なる事に気づく * 好きな遊びを見つける
讃美歌	ことりたちは	